

# 生涯教育めぐり



岐阜県：白川郷  
写真提供 岐阜県白川村役場

伝統文化「能」に親しむ .....	2
偉人のふるさとを訪ねて(鹿児島編) .....	4
「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」を訪ねて .....	6
プロフィール・インタビュー めぐろパーシモンホール 館長 島崎 忠宏さん .....	12



# 伝統文化

# 「能」に親しむ

6月29日(土)、めぐろパーシモンホール小ホールにて観世流能楽師梅若会井上燎治さんを講師に招き、能の入門講座が開かれました。



## 世界最古の舞台芸術

能・狂言は、世界無形文化遺産に登録されている伝統舞台芸能です。その歴史は古く六五〇年前の室町時代に舞台化され、現存する世界最古の舞台芸術と言われています。能と狂言は、長い年月兄弟のように一緒に育ってきました。能は著名な文学の主人公を取り上げた悲劇なのに対し、狂言は話し言葉で展開する喜劇です。江戸時代に能は武家の心得として定められ、また庶民の楽しみとして日本全国に広まりました。

## 情緒あふれる劇中ことば

能野、清経など九つの劇のクライマックスのところを解説いただきました。はじめに能独特の発声で歌詞を謳われ、その歌詞について、情景をあらすじとともにわかりやすく説明いただきました。

※解説いただいた劇

熊野(ゆや)、清経(きよつね)、砧(きぬた)、巴(どもえ)、鉄輪(かなわ)、杜若(かきつばた)、菊慈童(きくじどう)、葵上(あおいのうえ)、石橋(いしはしきょう) 全九劇

## 熊野

平家物語 里にいる母は老齢で一目熊野に会いたい一心であるが、主人の平宗盛は行くことを許さず、熊野を花見に連れ出す。熊野の心は晴れない。熊野は一句をしたためる……

いかにせん  
都の春も惜しけれど  
慣れし東の花や散ららん



井上燎治さんによる解説

## 難しかった所作体験

次に参加者が舞台上に上がり、所作体験をしました。背筋を伸ばし重心をおとして、腰を前に押し出すようにすり足で、足袋を床からあまり離さないように歩きます。方向転換するとき、足の内側が見えないように配慮します。これは大変難しく、足さばきを美しく見せる能の特徴です。この所作が出来るようになります。



井上燎治さんの解説を真剣に聞く参加者





井上燎治さんとともに舞台上がり、所作体験をする

ると、着物を着た時の歩く姿がとても美しく見えるそうです。  
 また本物の面おもてをつけて歩いてみました。足元が見えないなど視野がほとんどないため、舞台をあるくときは、柱を目標として歩くそうです。  
 なお、能舞台には距離感を感じさせるため、遠近法が取り入れられています。橋掛の松は舞台から遠い松ほど小さく作られています。



本物の面をつける参加者



伶以野陽子さんによる舞



井上燎治さんによる舞

## 心に響く謳いと 華麗な舞

今回は、羽衣の終曲と清経の舞を舞っていただきました。井上先生の舞はもとより、補助で来ていただいた女流能楽師 伶れい以野陽子さんの舞も見事でした。紙面ではお伝え出来ないのが残念です。

今回の講演会は「大変面白かった」「能を鑑賞する際の勉強になった」「足の運びや能面をつける体験が出来て良かった」「難しいと思っていた伝統芸能が少し理解出来た」などの声が寄せられ、盛況のうちに終了することが出来ました。次回以降も伝統芸能や舞台芸術などで皆様に喜ばれるような企画をしてまいります。

※本文について講演会当日に使用した井上燎治講師監修のレジュメから引用しています。







## 第164回研修会 「ふるきよきものの伝承」 (その26)

2019年7月15日(月祝)～7月16日(火)

失われつつある  
日本の精神文化を求めて



世界文化遺産「尚古集成館」の前で

偉人のふるさとを訪ねて(鹿児島編)

なりあきら

薩摩藩主・島津斉彬と

薩摩藩のリーダー西郷隆盛

今回は、さまざまな産業と人材を育て、日本の近代化に尽力した薩摩藩主・島津斉彬の足跡と、斉彬に影響を受け、リーダーとして薩摩藩を率いた西郷隆盛のふるさと、鹿児島県を巡りました。



仙巖園の御殿

「仙巖園」は島津家の別邸として、江戸時代初期の万治元年(1658年)に島津家19代当主・島津光久によって築かれました。この庭園には中国や琉球文化の影響が随所に見られ、「南の玄関口」として海外との交易を盛んに行った薩摩藩の歴史をうかがい知ることが出来ます。桜島を築山に、錦江湾を池に見立てて借景した雄大な眺めは、とびきり美しいもの。国の名勝にも指定され、多くの観光客が訪れる場所となっています。

### 仙巖園

空路を経て一行が降り立ったのは、明治維新萌芽の地のひとつ、鹿児島。外様大名の島津家が治めた薩摩藩は、火山噴火などの災害が多く、稲作にも適さず、財政は長らくひっ迫していたといえます。そんなこの地を、島津家はいかに守り立てたのか——それを知るべく、一行はまず「仙巖園」へと向かいます。

一行は、西郷隆盛の遺品や功績が展示される「西郷南洲顕彰館」と、西郷や、ともに戦った将士たちが眠る「南洲墓地」を訪ねます。下級藩士ながら薩摩藩主・島津斉彬に見出され、薩摩藩のリーダーとして薩長同盟をまとめあげ、明治維新を導く風雲児となった西郷。情に厚く、多くの人に慕

### 西郷南洲顕彰館



仙巖園から噴煙を上げる桜島を望む



美しく雄大な庭園

続いて鹿児島港からフェリーに乗り、桜島へ。錦江湾にそびえ立つ「桜島火山」は、鹿児島を代表するシンボルの一つです。有史以来、頻繁に噴火を繰り返してきたことから、活火山と都市の共生の象徴

### 「桜島」と「薩摩富士(開聞岳)」



2,023名の将士が眠る南洲墓地



学芸員の講話に耳を傾ける参加者

われながら西南戦争で没した英雄に思いを馳せる時間となりました。



にもなっています。

また二日目の朝、宿泊先の指宿温泉を出発したバスの車窓からは、もうひとつの鹿児島島のシンボル、薩摩富士こと「開聞岳」が望めます。鹿児島島のスケールの大きな自然に触れながら、指宿から30kmほど北にある「知覧武家屋敷庭園」へ向かいました。



バスの車窓から開聞岳を眺める

### 知覧武家屋敷庭園

「4人に1人が武士」といわれるほど人口に占める武士の割合が高かった薩摩藩では、武家を城下町に集約させるのではなく、領内113地区に分散して居住させる「外城」という仕組みを用いて、藩を効率的に統治しました。

現在も「外城」の姿が残されている「知覧麓の武家屋敷群」は美

しい庭園、整った石垣や生け垣、洗練された町並みから「薩摩の小京都」と称されています。一行は、端正な町並みに漂う江戸風情を目で楽しんでいました。



歴史と伝統を今に伝える「薩摩の小京都」こと知覧



江戸の風情が残る家屋

### 維新ふるさと館

その後、鹿児島市中心部に戻った一行は、明治維新の原動力となった偉人への理解を深めるため「維新ふるさと館」へ足を運びます。映

像やゲームなど多彩な展示が設けられている同館。等身大ロボットが演じる臨場感あふれるドラマ『維新への道』などを観賞し、幕末から明治に至る維新の道のりを、より身近にイメージしました。



維新ふるさと館内の展示物



同館の維新体感ホールで『維新への道』を鑑賞

### 照国神社

薩摩藩主の座に就き50歳で急逝するまでの7年間、斉彬は藩の近代化とともに、西郷や大久保利通らの登用・育成を手がけ、薩摩藩が

明治維新の一翼を担う礎を築きました。没後は「照国大明神」として照国神社に祀られ、今も鹿児島島を見守っています。

一行が訪れた7月16日は、ちょうど「照国神社 六月燈」の日。境内には奉納された色鮮やかな灯籠が並んでいました。六月燈は、鹿児島島の寺社では広く行われている行事ですが、照国神社の六月燈が最も賑わいを見せるそう。ここに並ぶ灯籠に、二斉に灯が灯されたらどんなに感動的なものか——そんな感慨に後ろ髪を引かれながら一行は帰路に就き、薩摩の偉人のふるさとを巡る旅を締めくくりました。



照国神社の境内にある島津斉彬像



八の字にくぐると願いが叶うそう

### 薩摩藩ゆかりの世界遺産

薩摩藩の藩政近代化の足跡である「仙巖園の反射炉跡」・尚古集成館「異人館」は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成遺産となっています。

薩摩藩は、当時支配下に置いていた琉球にいきりに異国船が来航する状況を知り、ヨーロッパ諸国のアジア進出を機敏に察知。危機感を抱いた斉彬の発案のもと、製鉄・造船・紡績などの近代工業化を推進する「集成館事業」に着手しました。この事業を通じて蓄積した経験は、やがて幕末・明治期の日本の近代化に大いに寄与します。



異人館 (旧鹿児島紡績所技師館)



尚古集成館



反射炉跡



# 「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」を訪ねて & クリムト展 ウィーンと日本1900

3年に一度開催される国内最大規模の芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」が開催され、会場である名古屋市美術館・愛知県美術館・豊田市美術館、そして足を延ばしてメナード美術館※を訪ねました。各美術館所蔵の名作、ウィーンの巨匠クリムト展、そしてあいちトリエンナーレの現代美術を美術研究家・沼辺 信一氏の名解説のもと鑑賞しました。

※メナード美術館はあいちトリエンナーレの会場ではありません。



## エコール・ド・パリを堪能

### 名古屋市美術館

アメデオ・モディリアーニの「おさげ髪の少女」②、マルク・シャガールの「二重肖像」、藤田嗣治の「夢」など、エコール・ド・パリ(パリで活躍した外国人と一部のフランス人作家たちの総称)を堪能しました。またアンゼルム・キーファーのダイナミックで不吉な絵画「シベリアの王女」や、フリーダ・カロの「死の仮面を被った少女」などの常設展を鑑賞しました。

青木美紅の「1996」③はあいちトリエンナーレ展示作品。刺繍で描かれた絵画の迫力に、思わず驚かされました。

## 目に見えるものにするのが

### アート 愛知県美術館

実在の風景や人・モノではなく、頭に浮かんだ概念やアイデア、メッセージを目に見えるものにする現代美術。今回驚かされた現代美術作品が、ヘザー・デューイの「ハグボーグの「Stranger Visions」」④。タバコの吸殻やチューインガムからDNAを採取・分析して当人の顔の3Dモデルを作り出してしまうという、恐ろしささえ感じる作品です。

ミリアム・カーンの「美しいブルー」⑤は、鮮やかな青いグラデーションが印象的な作品です。おぼろげに浮かび上がる悲しげな白い影は、迫害される人々を



「あいちトリエンナーレ2019」メインビジュアル



⑧



⑨



⑪



⑫



⑬



⑩

①名古屋市美術館の前で ②アメデオ・モディリアーニ《おさげ髪の少女》1918年頃-名古屋市美術館蔵 ③青木美紅《1996》-あいちトリエンナーレ2019 ④ヘザー・デュイ=ハグボグ《Stranger Visions》-あいちトリエンナーレ2019 ⑤ミリアム・カーン《美しいブルー》13.5.17 Photo: Daniel Martinek Courtesy of WAKO WORKS OF ART ⑥袁廣鳴(ユエン・グァンミン)《日常演習》-あいちトリエンナーレ2019 ⑦グスタフ・クリムト《人生は戦いなり(黄金の騎士)》1903年-愛知県美術館所蔵 ⑧解説する沼辺先生。背景は新聞で覆われたレニエール・レイバ・ノボ《革命は抽象である》2019 ⑨ゴミ袋で覆われた《革命は抽象である》2019 ⑩フィンセント・ファン・ゴッホ《一日の終り(ミレーによる)》1889~90年-メナード美術館所蔵 ⑪名古屋市美術館。手前はカルダーの「ファブニール・ドラゴンⅡ」。 ⑫豊田市美術館 ⑬豊田市美術館からの眺め

描いたものでしょうか。

袁廣鳴(ユエン・グァンミン)の「日常演習」⑥は、ドローン空撮による作品です。屋外広告やエレベーターには息遣いがありながら、道路に人影は無く、車は一台も走っていない異様な映像は、台湾で毎年行われる防空訓練を撮影したもので。平和な街に潜む戦争の脅威を感じます。

## 現代美術の巨匠クリムト

### 豊田市美術館

グスタフ・クリムトは19世紀末のオーストリアを代表する芸術家です。初期は「ヘレーナ・クリムトの肖像」のような写実的で繊細なタッチの作風でしたが、後に代表作「ユディト」や「人生は戦いなり(黄金の騎士)」⑦のような金箔を多用する華やかなものへと変化します。そんなクリムトも「アッター湖畔のカンマー城Ⅲ」などの風景画を遺しています。正方形のキャンバス、ほんの少しだけ描かれた空という構図から、クリムトらしさが垣間見えます。

あいちトリエンナーレ2019では、「表現の不自由展-その後」の中止に伴い、複数の作家が抗議のため展示を一時中止しました。そんな中、キューバのレニエール・レイバ・ノボ氏は展示を変更し、自分の作品を、展示中止を伝える新聞③やゴミ袋⑨で囲み隠し抗議の意を表現していました。

## 光と影の名作展

### メナード美術館

「ダブルシルエット—光と影が語ったもの」というテーマの企画展を鑑賞しました。クロード・モネの「チャリング・クロス橋」は、ロンドンが霧で霞む様子を巧みに表現しています。フィンセント・ファン・ゴッホの「日の終り(ミレーによる)」⑩は、夕方の田園風景を粗い筆使いで見事に表現しています。また、アレクサンダー・カルダーの針金彫刻「ゴルファー(ジョン・D・ロックフェラー)」は、壁に映し出されたシルエットも素敵でした。

## 美術館そのものがアート

黒川紀章氏による名古屋市美術館①、谷口吉生氏による豊田市美術館⑫は、「美術館そのものがアート」と呼ぶべき素晴らしい建物。美術館には、展示だけでなく、建物を鑑賞したり景色⑬を眺めたりする楽しみ方もあります。遠くに見える豊田スタジアムは黒川紀章氏による設計です。二日間にわたり、素晴らしい絵画や展示を数多く鑑賞しました。沼辺氏の解説は、作家や作品評のほか、美術界の裏話も交えた大変楽しいものでした。

紙面では、感動を十分にお伝え出来なないことが残念です。ぜひ美術館に足を運んだり、次回の美術鑑賞に参加したりするなど、ご自身の眼で美術を堪能ください。



# デジタル一眼レフカメラ入門 (その6)

2019年9月3日(火)~4日(水)

今年で6回目となる講座は、日本大学芸術学部写真学科 講師 穴吹有希先生を迎えて開催されました。湯河原万葉公園、熱海アカオハーブ&ローズガーデンと熱海駅周辺の商店街にて撮影会が行われました。



## 良い写真⇔直観

最初に座学を行い、良い写真とは何か?基本の構図、カメラの機能や設定について学びました。

良い写真とは、十人十色で定義づけられるものではありません。良い写真を撮るには、もちろん基本の構図はありますが、自分の直観を信じて写すことが大切であるとおっしゃられていました。

撮影会では、思い思いの被写体を見つけ、これでもかという感じでシャッターを切っていました。2日間で500枚近く写した方もいらっしゃいました。撮影後は、部屋に戻り、プロジェクターで作品を共有し、先生の講評が行われました。同じ被写体であっても、撮る人によってこんなにも違うのかと驚かされました。

今回も日本大学芸術学部写真学科学学生の利川萌々さん、川中子涼音さん、野口花梨さんにお手伝いいただき、また撮影モデルとしても活躍いただきました。ありがとうございました。

## ワンポイントアドバイス

おもしろいモノ(被写体)を見つけたら  
まずは直感で撮る。そして、枚数を多めに撮りましょう。

- 上下左右縦横に角度を変えて撮る  
写真集にした際、配置を工夫できる
- ピントを変える  
被写体をぼかす
- 明るさを変える  
花は暗めに撮るとより鮮やかに、料理は明るめに撮るとより美味しく
- 人を撮る時に動きを加える  
歩いている人は足を上げたときに

## 写真展「わたしの見つけた瞬間」vol.6

### 誌上写真展



10月23日(水)~11月1日(金)  
於中目黒GTギャラリー



# 50代から考える 夫婦のライフプラン講座を開催



2019.6.15(土)

渋谷エクセルホテル東急にて「50代から考える夫婦のライフプラン」と題した講座を(株)活性化セミナー研究所の井上国春氏と大橋正一氏を講師に迎えて開催いたしました。50才～68才のご夫婦5組を含めて13名の方にご参加いただきました。



「我が家のライフプラン」  
作成の解説をされる井上講師



「年金に関する基礎知識」を解説される大橋講師



休憩時間に講師へ質問する参加者

人生100年時代を  
マルチステージと捉えて

これまでは「人生80年」、生まれてから20年の教育期間、40年の仕事期間そして、引退後の老後20年という3つのステージでした。そして現在、「人生100年時代」を迎え、老後が40年間に延びるといふ考えではなく、マルチステージとしてどうライフプランを作り上げていくかを学びました。特に、あらたなステージとして「ライフワーク」を得るためにリカレント教育(学び直し)が重要であることなどを話されました。

ありたい姿を描き  
実現するプランを考える

井上講師による基調講演では「働きざかりをいきいき」と題して、お金、健康、生きがいに関わる3つの心配事についての講演がありました。次に「年金に関する基礎知識」について解説されました。午後からは、60歳～80歳までの20年間の収入と支出予測から「長期家計プラン」を作成しました。実際に「長期家計プラン」を作ってみると、今後どうしていくかのイメージが掴むことが出来ました。そして「我が家のライフプラン」作



真剣に講義を受ける参加者

成では、仕事や地域などの社会との関わり、家族やお金などの個人の生活それぞれにありたい姿を描き、それを実現するための具体策を考え基本方針を作成しました。

これらの家計と基本方針のプラン作成により、今後の漠然とした不安が払しょくされ、今から準備すべきこと、行動する手掛かりを掴むことが出来ました。また、一度作ったプランを定期的に見直すことも大切であるとお話がありました。

このセミナーでは、講義を聴くだけでなく、ライフプラン「知恵の交流会」として参加者同士で情報交換をしました。2班に分かれて行いましたが、皆様積極的に発言され、時間いっぱいまで意見を交換していました。

参加者からは「大変に分かりやすく、とても参考になった」、「これからの生活を見直したい」というアンケートの回答をいただき、大変好評であったライフプランセミナーでした。

## ご報告



### 第41回懸賞論文 「私の道草」入賞者が決定

今年も、恒例の懸賞論文の公募がおこなわれました。今回のテーマは「私の道草」です。厳正な審査の結果、入賞者は左記の方々に決まりました。

賞	作品名	氏名	居住地
1席	その先にきっとあるもの	小松崎 有美	埼玉県所沢市
2席	楽しかった!	坂本 ユミ子	兵庫県神戸市
	私の中の「移民時代」	米須 清富	沖縄県中頭郡
3席	空を飛びたくて	小野寺 直美	千葉県成田市
	自分の道	山田 修	神奈川県横浜市
	我が道草人生に悔いはなし	白川 好光	埼玉県三郷市
	命の回り道	前 真梨恵	岡山県倉敷市
	うつ病が教えてくれたこと	安部 修一	千葉県市川市
佳作	私の道草…途上にて	小野村 龍	東京都世田谷区
	コンプレックスを喰う馬	宮崎 登美江	福岡県春日市
	寄り道で食べたスイカ	八木 幸次	静岡県裾野市
	途中下車、前途洋々	吉田 加代子	福岡県北九州市
	今私たちにできること イスラムから学ぶ	野津 波音	神奈川県横浜市
	長い道草	横田 真司	東京都台東区
	私の天職である世話人という仕事について	野上 義久	東京都目黒区
	伝える	三井 桃子	東京都練馬区
	無価値に眠る価値	松岡 美帆	千葉県柏市
	線路脇の草むらで	中西 令子	モンゴル
	小さな汽車と大きな若者	関本 康人	東京都文京区

### 北野財団混声合唱団 結団式開催

当財団では、6年間にわたりフォーレ『レクイエム』、創作オペラ『ヤマタノオロチ』の合唱に取り組んできましたが、昨年度より装いも新たに「北野財団混声合唱団」として出発いたしました。今年度も公募で集まった合唱団メンバー約60名出席のもと、結団式が10月8日(火)中目黒GTプラザホールで開催されました。合唱指導の荒牧小百合先生、竹内雅拳先生、ピアノ伴奏の矢野里奈先生のご紹介があり、「初めてアカペラに挑戦します。とても難しいのでコンサートまで休まないで練習に参加してください」とお話がありました。その後、聖徳大学音楽学部教授で日本声楽家協会理事の山本まり子氏による講演会「声の重なるの音楽史」約1200年にわたる多様な響きをたどって」が行われ、団員のみなさんは真剣に聴いていました。

コンサートは3月7日(土)めぐろパシモン小ホールで開催されます。



講演される山下まり子氏

### アウトリーチプログラムへの協賛

当財団では、公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団が主催している「アウトリーチプログラム」に協賛しています。この事業は、目黒区内の小中学校にプロのアーティスト(声楽家、ピアノ)を派遣し、生の演奏を観て・聴いて、感じて、芸術文化に触れて一緒に楽しむことを目的としています。生徒たちの心に素晴らしい音色が刻まれたことでしょう。



感情を込めて演奏する声楽家

### 2019年度生涯教育 研究助成金対象者が決定

今年度も生涯教育研究助成金の公募が行われ、生涯教育に関する調査・研究をする多くの方々の中から、研究助成金選考委員会による厳正な審査の結果、対象者が決定いたしました。今後の研究が大きな成果に繋がることでしょう。

鶴若麻理 聖路加国際大学 准教授  
笹宗一 静岡県立大学教授



研修の成果を発表するみなさん

た。参加者は、研修に参加して学んだことや気づき、行動革新への意気込みなどを熱く語りました。

### 生産性の船1号船 成果報告会

当財団では、公益財団法人日本生産性本部が主催する洋上研修「生産性の船」に勤労者を派遣し、その派遣費用を助成しています。7月6日(土)〜14日(日)までの9日間の研修を終えた5名による「成果報告会」を、7月26日(金)財団ホールで開催しました。参加者は、研修に参加して学んだことや気づき、行動革新への意気込みなどを熱く語りました。

青木 久美子 放送大学教授  
大黒 達也 ケンブリッジ大学 研究者  
渡辺 幸倫 相模女子大学教授  
酒井 佑輔 鹿児島大学 准教授  
土田 千愛 東京大学大学院 博士課程  
梅田 直美 奈良県立大学 准教授  
前沢 知子 東京学芸大学大学院 博士課程  
嘉納 英明 名桜大学教授



# お知らせ



## 美術研修(その60) 関東近郊の美術館を訪ねて

日帰りで関東近郊の美術館を巡ります。お気軽にご参加いただけます。

**日程** 2020年3月  
**講師** 沼辺 信一氏  
**定員** 40名

## 歴史研修(その11) 丹波・播磨の城めぐり

戦国武将 明智光秀ゆかりの城、桜の名所でもある福知山城と、篠山城、そして平成5年に日本で初めて世界文化遺産に登録された白壁が美しい姫路城を、歴史研究者・小和田 哲男氏と共に巡ります。

**日程** 2020年春  
**講師** 小和田 哲男氏  
**定員** 40名



姫路城

## 第47期 主要行事のご案内

- 2019年
- 10月 ● 理事会
  - ベトナム(国立農業大学) 奨学金授与式
  - 11月 ● 評議員会
  - 研究助成金授与式
  - 懸賞論文入賞者表彰式
  - 論文集「私の道草」発刊
  - 生産性の船2号船 成果報告会
- 2020年
- 2月 ● 懸賞論文公募
  - 3月 ● 彫刻奨学生作品設置(山梨県笛吹市)
  - 北野財団混声合唱団コンサート
  - 科目等履修奨学生・放送大学 大学院修士全科奨学生 奨学金授与式および成果発表会
  - 美術研修
  - 歴史研修(丹波・播磨の城めぐり)
  - 中国(広東工業大学) 奨学金授与式
  - 中国(南開大学・天津大学) 奨学金授与式
  - 4月 ● 研究助成金公募
  - 洋上研修公募
  - 5月 ● 科目等履修生および放送大学生(選科履修生・大学院修士全科生) 奨学生選考会
  - 6月 ● 「ミナタナオ子」も図書館「大学生奨学金授与式
  - ライフプランセミナー
  - 彫刻奨学生奨学金授与式
  - 講演会「伝統文化」狂言」に親しむ
  - 7月 ● 懸賞論文審査委員会
  - 研究助成金選考委員会
  - 伝承研修
  - 8月 ● インドネシア(PONINS大学) 奨学金授与式
  - 生産性の船1号船 成果報告会
  - 9月 ● デジタル一眼レフカメラ入門
  - 美術研修
  - ベトナム(スンサ高校・フンイン財務経営管理大学) 奨学金授与式
  - 「ミナタナオ子」も図書館「保育所開所式
- ※講師等の都合により、スケジュール変更の場合があります。

## こ・ち・ら・編 集 室

食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、そしてスポーツの秋を迎えました。先のラグビーワールドカップでは日本代表の「もう奇跡とは言わせない」躍進に心がおどりました。ところで、財団では歴史研修、伝承研修、美術研修など様々な活動を通して学べる機会を提供していますが、これらの研修では意外にも歩くことが多く、足腰の強さが必要となってきました。激しい運動は体に負担がかかりますが、適度な運動はとても気持ちの良いものです。爽やかな風と紅葉の中、お近くの公園を歩いてみてはいかがでしょうか。

### 設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持つよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

## 生涯教育だより 第121号

2019年11月10日発行

編集人 城 真二

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03 (3711) 1111

## 表紙ギャラリー

当財団は、『出会いドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出会いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出会いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

### 白川郷(岐阜県)

誰しもが懐かしさを感じて心がほっこりする、そんな日本の原風景…『白川郷・五箇山の合掌造り集落』は1995年にユネスコ世界文化遺産に登録されました。

春、水をはった田んぼに映る「逆さ合掌」と満開の桜。夏、黄緑色のじゅうたんや青い空、白い雲に映える大きなかやぶき屋根。秋、黄金色の稲穂を揺らすやさしい風と宝石の様に美しい秋色を散りばめた紅葉の山々。冬、真っ白な帽子をかぶり、じっと静かに時を刻む集落。どれを取っても、いつ訪れても、きっと私たちに素敵に迎えてくれるのではないのでしょうか。

しかし、この素晴らしい原風景を維持することは決して容易なことではありません。雪深いこの地では、合掌造り(切妻造り)の建物は、雪が解けやすいように南北を向いています。かやぶき屋根は厳しい豪雪に耐えられるよう、また雪下ろしがしやすいように45度～60度の急こう配になっています。数十年に

一度おこなわれる葺き替えは、多くの人の力が必要で、村人総出でおこないます。これは昔からこの地で受け継がれてきた「結」といわれる、住民が互いに助け合う相互扶助の精神です。この「結」の精神があったからこそ、今も合掌造りが残されているのかもしれない。今ではこの合掌造りを残そうと、材料である「茅」を村人と一緒に刈り取ったり、合掌造りの屋根組体験プロジェクトなども行われています。

観光客に人気の冬のライトアップは完全予約制です。昔話の世界にそっと足を踏み入れてみませんか。



(写真提供: 岐阜県白川村役場)



めぐろパーシモンホール  
館長

**島崎 忠宏**さん  
TADAIRO SHIMASAKI

# 多彩な文化・芸術を発信し、人と文化、人と人をつなげる

目黒区において、音楽や芸能の発信地となつている、めぐろパーシモンホール。芸術・文化の振興を基盤に、人と人のつながりの場を提供するという理念と活動内容について、島崎館長にお話を伺いました。



めぐろパーシモンホールの成り立ちについて教えてください。

めぐろパーシモンホールが誕生したのは2002年のこと。東京都立大学の跡地に、音楽や舞踏といった幅広い芸術を発信する拠点として当ホールが建設されました。以降、所在地の地名「柿の木坂」の「柿」を意味する「めぐろパーシモンホール」と名付けられ、文化・芸術をテーマに人々の交流の場として機能し、地域住民の皆さまに愛される施設になることを目指して活動しています。

活動内容についてお聞かせください。

優れた音響設備を生かして、演奏会やバレエ、能や落語といった伝統芸能の上演やワークショップの開催など、年間40事業の公演を実施しているほか、ホール外の催しも数多く開いています。その一つである



めぐろパーシモンホール 外観

「アウトリーチプログラム」は、目黒区内の小中学校をはじめとした公共施設に演奏家を派

遣する取り組みです。2006年に小学校2校、中学校2校での実施からスタートして、2019年は小学校22校、中学校5校に幼稚園や福祉移設を含む計35箇所にお招きいただく規模に成長しています。

また北野生涯教育振興会様の協賛を得て、地域の子どもを対象としたワークショップ事業も展開しています。これは、プロのアーティストに講師になってもらい、子どもたちに演劇やダンスを学んでもらうという催しです。地域コミュニティのつながりが薄くなり、現代の子どもたちにとってコミュニケーションの機会が失われつつある中で、芸術を通じてコミュニケーションの土台となる表現力を高めることを目的に推進しています。

2019年に中学生・高校生を対象として実施した演劇のワークショップの初日では、平田オリザさんに講師を務めていただき、演劇に触れるきっかけ作りをしていただきました。伝える力の向上と自己肯定感の醸成にもつながり、参加した子どもたちにも好評でした。

同じく2019年実施のダンスのワークショップは、3日間ではあるものの、擬声語を体の動きで表現するという自由な発想で作品を作り、発表会で練習の成果を披露してもらいました。講師は、ダン

サー・振付家として有名な近藤良平さん。エネルギーシユな方なので、参加した子どもたちにも、生きるエネルギーが伝わってくれたら、と願っています。

島崎館長がめぐろパーシモンホールに関わることになったきっかけについて教えてください。

前職は目黒区の都市整備部長として、街づくり関連の職務を担当していました。その後、現職に至ります。一見今の業務と関わりがないように思えますが、前職では防災をテーマに人と人のつながりづくりをしていたので、つながりの場の創生という意味では非常に近い仕事といえるのではないのでしょうか。

北野生涯教育振興会についての印象をお聞かせください。

貴法人では、1975年から生涯教育の振興に当たっておられます。物の豊かさから心の豊かさへ、価値観の移行が起きるきっかけとなった第一次オイルショックが1973年なので、社会に先駆けて活動してこられたことがよく分かります。めぐろパーシモンホールの活動にご賛同いただいていることは何よりの励みになりますし、北野生涯教育振興会様のさまざま

事業が生涯を通して学習していける環境づくりをしていただけることは、日本の芸術文化の振興に対して大きな意義を持つと感じています。



1,200席の大ホール

自身のモットーを教えてください。

人生、誰にでもゴールがありますので、そのときまで「より良く生きたい」と思っています。そのために、仕事でも自分が何をすべきかを常に考えながら行動しています。

読者の皆さんへメッセージをお願いします。

めぐろパーシモンホールでは、職員一人ひとりが発想力と企画力、実行力を発揮しながら企画立案から運営までこなしています。その結果が高い稼働率とリーズナブルな料金、著名な芸術家による上質な公演の実現として花開いています。皆さんにもぜひめぐろパーシモンホールに足を運んで、芸術に触れ合うとともに、交流の場として活用していただきたいと思ひます。

地域の皆さまに愛される施設を目指してめぐろパーシモンホールの運営に取り組んでおられる島崎館長。設立からおよそ20年を迎えるなかで、今後一層地域の皆さまに貢献していくことへの熱い想いを語ってください。めぐろパーシモンホールのさらなる発展をお祈りします。